

温水洗浄機 EPC-1000

エレクトリックパワークリーン

NEW

エコキュートと接続することで
ボイラー非搭載の環境に配慮した高圧温水洗浄機
CO₂排出量 約85%削減!! (当社比)

- ボイラータイプの高圧温水洗浄機と比較し、給油する手間とランニングコストを削減できます。
- モーターストップ機能付きで電力使用量も低減します。
- 洗車を多く行う場合、エコキュートを連結設置することで、高頻度の使用にも対応可能です。



BANZAI NEWS

2024
Autumn
332

特集
BANZAI NEWS

技術“進取”を安全性・業務効率向上
および他社との差別化のチャンスに

BANZAI 株式会社 バンザイ

本 社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail: teigyo@banzai.co.jp

営業部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6881

海外販売部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6894

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700

東京支店
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6840

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600

大阪支店
大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261

- 営業所 旭川・青森・秋田・盛岡
都山・山形・新潟・長野
前橋・宇都宮・水戸・埼玉
千葉・横浜・静岡・多摩
北陸・三重・京都・神戸
高松・宮崎・鹿児島
- 出張所 帯広・函館・富山・松山
岡山・山口・山陰・長崎
大分・熊本
- 販売会社 バンザイ沖縄販売(株)

<https://www.banzai.co.jp>



ISO9001 認証取得
ISO14001 認証取得
バンザイは SDGs を推進する
日本ユネスコ協会連盟の維持
会員として支援しています。



磐梯吾妻スカイラインの錦秋 ————— 福島県

福島県・吾妻山の東側山麓にある高湯温泉から、標高1240mほどの土湯峠までの全長29kmの山岳観光道路。吾妻山を見ながらの高原風景は雄大で変化に富んでいる。

高湯側から約8kmの「つばくろ谷」は紅葉するカエデやダケカンバの絶景ポイントとして有名。日本の道100選にも選ばれており、紅葉の見所としてドライブやツーリングで毎年多くの観光客が訪れる。

★歳時記

11月 3日 文化の日
7日 立冬
15日 七五三
23日 勤労感謝の日
12月 21日 冬至
25日 クリスマス



●目次

★特集

ピンチをチャンスにし

収益も信頼も得られるサービスショップとなるには?..... ①

【第3回】技術“進取”を安全性・業務効率向上

および他社との差別化のチャンスに

★モデルショップ訪問

【有限会社根岸自動車】..... ⑥

ディーラーと肩を並べる新店舗とサービス工場を

新設、次世代のトータルカーサービスへ発進!

★EPOCH 学生フォーミュラ2024..... ⑧

★ショールーム..... ⑩

★TOPICS 機工協主催ドイツアウトメカ視察レポート..... ⑭

★ロータリー..... ⑯

★BANZAIガイド..... ⑰

特集
BANZAI NEWS

ピンチをチャンスにし収益も信頼も
得られるサービスショップとなるには?

第3回

技術“進取”を安全性・業務効率向上
および他社との差別化のチャンスに



車検の際、専用のアプリがインストールされたスキャンツールを車載コンピューター（ECU）に接続し、保安基準不適合となる故障コード（DTC）がないかを確認する「OBD検査」の本格運用が、2024年10月1日より開始されました（輸入車は2025年10月1日より）。

しかしそれ以前にも、特定整備制度が2020年4月、OBD点検が2021年10月より開始。ADAS（先進運転支援システム）や電動化技術の進化・普及、それらを踏まえた整備・修理技術の高度化と関連法規・制度の厳格化は、日々着々と進んでいます。

当連載「ピンチをチャンスにし収益も信頼も得られるサービスショップとなるには?」、3回目の今回は、こうした技術の進化、法令の変化に“対応”するのみならず、いかにして“進取”、積極的に採り入れてチャンスに活かすかを、考えていきたいと思います。

OBD検査はなぜ必要？ 対象車種・装置は？

2017年12月から2019年1月まで国土交通省により計8回開催された「車載式故障診断装置を活用した自動車検査手法のあり方検討会」の最終報告書を受けて、2020年8月に保安基準が一部改正されたことで導入が決定した「OBD検査」。1年間のプレ運用期間を経て、2024年10月1日よりついに本格運用が開始されました。

まずはこのOBD検査について、制度の概要を振り返りつつ、2023年9月から2024年9月まで国交省と独立行政法人自動車技術総合機構（機構）により計8

回開催された「OBD検査準備会合」などを通じて見えてきた注意点についても、確認していきたいと思っています。

そもそもこのOBD検査は、なぜ導入されることになったのでしょうか？

最も直接的な要因と考えられるのは、ADASの普及です。スバルの「アイサイト」やダイハツの「スマートアシスト」といったシステムが火付け役となった2013年以降、普及が加速。統計データからも事故件数とその被害規模低減に効果を発揮することが見て取れるようになってからは、政府も2017年より「サポカー」制度を創設し、その普及を後押ししました。その一方で、ADAS用センサーの不具合を原因とした事故も、次第に発生するようになっていきます。

しかしADASのような電子制御を用いたシステムの不具合は、従来のメカニカルな部位のように五感を用いて不具合の原因箇所を特定するのが非常に困難です。

そしてそれは、ADASだけに限りません。エンジンやモーターなどのパワートレイン、トランスミッション、ライト、ステアリングやブレーキ、衝突安全装置など、電子制御を用いている、つまりOBDを実装した部位であれば、スキャンツールによる点検整備が今や必要不可欠になっています。

こうした背景から、従来の「分解整備制度」に加えて電子制御を用いた部位の整備（＝電子制御装置整備）にも認証の取得を求める「特定整備制度」が2020年4月、12ヵ月点検時の点検項目にスキャンツールでの故障診断を追加した「OBD点検」が2021年10月より開始。そのうえで、OBD検査の本格運用が

このほど開始されたのです。

しかし、OBD検査の対象となる車両は、OBD点検のように、年式を問わずOBDを搭載する全ての自動車というわけではありません。国産車は2021年10月以降の新型車（フルモデルチェンジ車）、輸入車は2022年10月以降の新型車（フルモデルチェンジ車）のみに絞られます。

OBD検査の対象車両かどうかは、車検証に記載されて

います。ただし、検査日が型式指定年月日から2年を経過していないか、初度登録年月または初度検査年月の前月の末日から起算して10ヶ月を経過していない場合は、OBD検査が不要と判定されます。そのほかにも一部例外があるため、後述の「特定DTC照会アプリ」または「OBD検査結果参照システム」で、OBD検査が必要かどうか確認するのがベストでしょう。

また、OBD検査の対象となる装置も、保安基準に規定がある運転支援装置および自動運転機能、排ガス関連装置で、OBD点検とは若干異なります。具体的にどの部位が対象となるかは車種・型式ごとに異なるため、各装置の故障を推断できるDTCを「特定DTC」としてカーメーカーが型式ごとにリストアップし、機構がOBD検査用サーバー（機構サーバー）で管理しています。

(参考)『OBD点検』と『OBD検査』の違い

OBD点検	OBD検査	OBD確認
定期点検整備	検査（車検）	任意 （高機能機能はなし）
令和3年10月1日	令和6年10月1日 （輸入車は令和7年10月1日）	OBD検査が必要な自動車に対し、次の目的で実施
OBDを搭載する全ての自動車 （年式にかかわらず）	令和3年10月1日以降の新型車 （輸入車は令和4年10月1日以降の新型車）	✓ 完成検査時以外での 過否の確認
12ヵ月ごと	車検時 指定：完成検査時 持込：持込検査時	✓ 持込検査での過時
スキャンツールを接続し、 整備が必要な故障コード があれば整備	機構サーバーに接続して 可否判定 （自動判定）	
認定は不要	認定を受けた「検査用スキャンツール」	

※ わかりやすいように説明を簡略化。正確には法令を参照のこと

OBD点検・OBD検査・OBD確認の違い（出典：国土交通省）

検査用スキャンツール 選びの要点は「専用機か 兼用機か」だけではない！

さて、サービスショップ、特に指定工場の皆様が自社工場内でOBD検査を行うには、また認証工場の皆様が車両を検査場へ持ち込む前に実施することで検査場でのOBD検査を原則不要にできる「OBD確認」を行うには、どんな準備が必要でしょうか？

ハードウェアとしては、インターネットで機構サーバーに接続できる通信環境と、特定DTC照会アプリをインストールできるWindows10以上のOSを実装したPCまたはタブレット、そして日本自動車機械工具協会より型式認定を取得した、車両のOBDコネクタに接続しECUから特定DTCを読み取るための「検査用スキャンツール」。

手続としては、機構サーバーに接続しOBD検査シ



OBD検査開始告知ポスター（出典：国土交通省）

システムを利用するための事業場ID登録と、PCまたはタブレットへのクライアント証明書インストール、OBD検査システム利用者登録、PCまたはタブレットへの特定DTC照会アプリのインストール、が挙げられます。

手続の詳細については機構が運営するwebサイト「OBD検査ポータル」(<https://www.obd.naltec.go.jp/>)に掲載されておりますので、ここでは導入する検査用スキャンツールを選ぶうえでのポイントについて、説明したいと思います。

まず検査用スキャンツールは、OBD検査のみに使用可能な専用機と、特定整備制度の電子制御装置整備認証を取得するのに必要な「整備用スキャンツール」の機能を兼ね備えた兼用機に分けられます。

整備用スキャンツールをすでに別途お持ちで、検査用スキャンツールのみ必要でしたら、ディスプレイがなくコンパクトなVCI(Vehicle Communication Interface)のみの専用機をお求めいただければ、導入コストを抑えることができます。一方、整備用スキャンツールをお持ちでない場合はもちろん、特定DTCが検出された際シームレスに不具合の原因を特定し迅速に整備できるよう、より高い作業効率を追求されるならば、兼用機の導入がオススメです。

なお、検査用スキャンツールの型式認定の対象となるのは、スキャンツール本体だけではありません。車両とVCIとをつなぐコネクタやケーブルも含まれます。これは、非認定品のコネクタやケーブルを車両とVCIとの接続に使用してOBD検査を実施すると、正しい判定が行われないおそれがあることからの措置ですが、法的にも非正規品を用いてのOBD検査を実施した場合は処分の対象となります。そして、認定コネクタ・ケーブルが消耗し正常に使用できなくなった場合、その補修品が設定されていなければ、検査用スキャンツールを丸ごと交換する必要に迫られます。

また、CAN(Controller Area Network)よりも大量のデータをリアルタイムに処理できるイーサネット(Ethernet)ベースの診断通信規格(DoIP)・ISO13400に対応した車両がメルセデス・ベンツを中心としてすでにあり、こうした車両でDTCを読み取るにはISO13400に対応したスキャンツールが必要になります。今後はOTA(Over The Air.無線による車両とのデータ通信)アップデートや充実したコネクテッドサービスを可能とするSDV(Software Defined

Vehicle.ソフトウェア先行型で開発される車両)とともにISO13400の普及も見込まれることから、検査用スキャンツールを選ぶうえでもその対応の有無が無視できない判断基準になるでしょう。

そして、令和6年度(2024年度)のスキャンツール導入補助金交付申請受付が、2024年7月30日より開始されました。補助率は購入経費の3分の1、1事業場あたりの上限額は15万円となっておりますが、今回は先着順で、受付期限の2025年1月31日より早く予算がなくなつた場合はその時点で終了となります。2024年9月29日時点での予算消化率は73%となっておりますので、ぜひ有効活用したいところです。

バンザイでは現在、オリジナルのスキャンツールとして、タブレット+VCI分離型の「MST-nano2」シリーズと、一体型の「MST-8R」シリーズをご用意しております。双方とも検査用スキャンツールと整備用スキャンツールの兼用機ですが、「MST-nano2」シリーズには検査用スキャンツール専用機も設定されています。またいずれの機種も、コネクタ・ケーブルの補修品を設定しており、ISO13400に対応。令和6年度スキャンツール補助金の対象機器でもあります。



バンザイオリジナルのスキャンツール「MST-nano2」

	車両	ケーブル	VCI	ケーブル	PC等
	OBD検査対象車	(有線接続の場合)	必須	(有線接続の場合)	必須
製作費		フルメーカー製 (非認定品も流通)	フルメーカー製	フルメーカー製 (非認定品も流通)	ソフトウェアは フルメーカー製 (PCは汎用品)
型式認定		対象	対象	「対象」 フルメーカーが ケーブルを指定する 場合	対象 (ソフトウェアのみ)
メーカー保証書		対象	対象	「対象」 フルメーカーが ケーブルを指定する 場合	対象 (ソフトウェアのみ)
整備工場に対する 区分		非認定品を 使用すると処分 (非認定品の 延長ケーブルを 使用した場合を含む)	非認定品を 使用すると処分	非認定品を 使用しても処分なし	非認定品を 使用すると処分 (ソフトウェアのみ)

※ 現時点で法令等によりメーカー保証を義務付けているものではなく、一般的な保証範囲をまとめたもの
検査用スキャンツール接続ケーブルに関するルールなどの適用関係 (出典：国土交通省)

そして再度ご提案したいのが、ADAS用センサー調整のみならずボディ・シャシー全体も点検整備することでADASの正常作動を確認する「トータルエイミング」を、デジタル化された最新の整備機器により作業の早さ・正確さ・省力化を最大限追求する「トータルエイミングスマート」の実践です。これを特定整備やOBD点検、OBD検査とも有機的に連携させることで、他のサービスショップとの差別化や高収益化も可能になります。詳細についてはバンザイ営業スタッフへお気軽にお問い合わせ下さい。

次回は、これまでにご紹介した「法令“厳守”の仕組み作り」「人財“尊重”のお店作り」「技術“進取”の取り組み」をさらなる収益・信頼獲得に結びつける方法について考えたいと思います。



OBD検査開始に必要な準備の概要 (出典：自動車技術総合機構)



OBD検査実務とDTCデータの流れ (出典：自動車技術総合機構)

ディーラーと肩を並べる新店舗とサービス工場を 新設、次世代のトータルカーサービスへ発進！

ダイハツのサブディーラーとして全国有数の販売を誇る有限会社根岸自動車がショールーム及びサービス工場を一新し、新たな一歩を踏み出しました。車販をベースにしてきたトータルカーサービスの循環から、サービスから始まる新たなループづくりを目指し、次世代トータルカーサービスに向けた取り組みがスタートしています。



シンボリックなキャノピーでディーラーデザインに仕上げた新店舗。



創業以来拡張を続ける敷地は東日本でも指折りの規模。

次世代に向けた新たなトータルカーサービス

埼玉県北東部の羽生市で1978年から、約半世紀にわたって自動車整備を展開する根岸自動車（ダイハツ販売羽生）は本社店舗を拡張するとともに、ショールーム、サービス工場を新築し、本年1月より新たなスタートを切りました。同社はダイハツのサブディーラーとして自動車販売で頭角をあらわし、全国でも指折りのトップセールスとして表彰を受けるなど、車両販売を起点とするトータルカーライフを具現化する店舗として近年著しい成長を遂げてきました。2018年に創業者である根岸孝明氏が取締役会長に、代表取締役にはご子息の根岸翔太氏が就任し、新たな体制が発足、そして今般、新社屋の完成により、次世代に向



代表取締役社長
根岸 翔太 氏



「入りやすい店舗になった」と評価も上々、お客様の来店率も向上。



フローリングと採光の工夫で明るいショールームが完成。

けた新たなトータルカーサービスがスタートしました。

「弊社は町工場からスタートしましたが、店構えは、お客様が店舗を認知していただく際の重要な要素と考えています。その新しいショールームについては多くのお客様から『ディーラーのようですね』と高い評価をいただきました」と根岸翔太社長。また、「在庫車の配置を店舗から近づけて導線を変えたことで商談スピードは早くなり、成約率は2割あがりました」（根岸翔太社長）と販売への効果も出ているようです。

お客様にも整備士にも優しいサービス工場

一方、サービス工場についてもサービス品質とコンプライアンス向上の観点から次世代に向けた工場づくりを目指しました。「お客様から、物理的にも内容的にも見えるサービスをコンセプトに、整備工場づくりを進めました。また、次世代自動車を含め、お客様の多様な要請に応えられる設備を整えています」（根岸翔太社長）。

整備作業場はショールーム側からクイック整備用のストール、そして検査ラインを配置した全9ストールで構成。検査ラインは根岸孝明会長の思い入れを参考に、ブレーキ、スピードともに移動することなく計測が可能なスーパーマルチテスターを導入しました。また、4トンのリフトには丈夫で様々なシーンで活躍するパスカルリフトを設備するなど、お客様にも整備士にも優しいサービス工場が具現化されました。

なお、工場内にはエアコンを完備し、検査ラインとクイック整備用のストールにはキャビネットを設置することで整備士の働きやすい環境に配慮した整備工場を実現しています。

「現代のクルマはドライブトレインが多様化し、スマホ化するなど、進化を遂げており、お客様のカーライフも変わりつつあります。そのカーライフに寄り添えるよう、弊社も進化を続けてまいります。新たな店舗と工場を構えたことで、その体制がしっかり整いました」と根岸翔太社長。

販売・整備のトップランナーが、次世代に向けてアップグレードを遂げた。



タイヤサポートアーム標準装備のタイヤチェンジャー、「モンティ3300 SRAC」（右）とホイール balancer「ゲオダイナ7800」を設備。



門型洗車機はワイドタイプや軽トラックの洗車も可能とする「NEWT-X」。



クイック整備のストール（右）と検査ライン（左）。



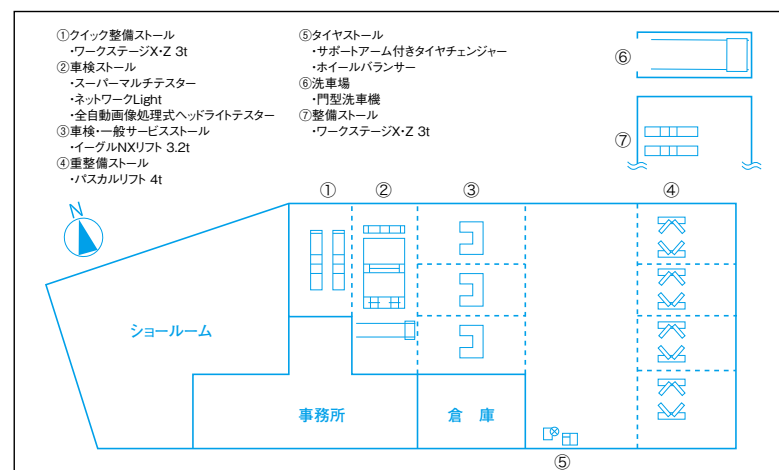
サービス工場全景。検査ラインを含めて全9ストールは旧工場から増設。



3トン以上の能力を要するストールにはイーグルNXリフトを選定。



ストール間は余裕を持たせたゆりの設計。また、全ストールにエアコンの吹き出し口を設備するなど整備士の働く環境を改善。



「学生フォーミュラ」にバンザイが 2大会連続で協賛、未来を担う学生を応援

「第22回ものづくり・デザインコンペティション
学生フォーミュラ日本大会2024」がAichi Sky Expoで開催

未来の自動車エンジニア育成を主眼として、各大学・自動車大学校がレーシングカー開発ベンチャー企業という想定の下、学生たちが世界統一ルールに則ったフォーミュラカーを自作。販売戦略、コスト管理、デザインを含めた開発能力、走行性能を競う「学生フォーミュラ」の22回目となる日本大会が2024年9月9～14日の6日間、Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場。愛知県常滑市）で開催されました（主催：自動車技術会）。

各車はアクセラレーション（加速性能）100点、スキッドパッド（8の字旋回）75点、オートクロス（コース走行）125点、エンデュランス（耐久性）275点、効率（燃費・電費）100点、コスト100点、プレゼンテーション75点、デザイン150点の計8項目・1000点満点で評価。チームと車両の総合力が市販車さながらに問われる内容となっています。

静岡県小笠山総合運動公園エコパ（静岡県袋井市）から会場を17年ぶりに移転し、Aichi Sky Expoを舞台とした今大会には、ICV（ガソリンエンジン車）54チームとEV（電気自動車）21チームの合計75チームが参戦。うち9チームは海外からの参戦で、国際色豊かな大会となる中、ICVクラスで参戦した京都工芸繊維大学が総合優勝3連覇を達成、EVクラスでは名古屋工業大学がクラス優勝を手に入れました。



会場変更に伴い路面の凹凸が増え直線が減ったことで、オートクロスおよびエンデュランス競技は旋回性能やトラクションの高さがより重要に。写真はICVクラス優勝かつ総合優勝3連覇を達成した京都工芸繊維大学



モーターによる大トルクを活かした加速性能の高さは電動車の大きな強み。写真はEVクラス優勝を果たした名古屋工業大学



海外参戦チームでは中国勢がデザインやプレゼンテーションなどで高評価を受け躍進。写真はTongji University（同済大学）



車検ではブレーキ、騒音、チルト試験（写真）などを実施。今回通過し動的審査に進めたのは48チーム、全体の約2/3だった



車検未通過のチームは修理工房へ入庫。レギュレーションに合致するよう自動車メーカー技術者が溶接機などを用いて修理に当たる

企業PRコーナーでは未来の自動車 エンジニアにバンザイの魅力を訴求



学生フォーミュラの趣旨に賛同し協賛するスポンサーは年々増加。会場内に2か所設置された特設パネルにはBANZAIロゴが



今回から屋内となった企業PRコーナー。バンザイブースでは自動車業界の発展に貢献した100年の歴史を訴求



押しボタンスイッチで扱いやすい「マスターホイール80」でのタイヤ&ホイール昇降を実演



バンザイの歴史や事業内容、企業理念、強みなどの説明へ熱心に耳を傾ける学生たち



軽量で持ち運びしやすい「アルミ製ガレージジャッキ」に学生フォーミュラ参戦チームも興味津々



スキャンツール「MST-7R」（奥）を展示したほか各種ケミカルの効果体感コーナーも設置

また今大会には総計222社・団体がスポンサーとして協賛。バンザイは前回に続き2大会連続で協賛し、今回から屋内になった企業PRコーナーにブースを設置。6名のスタッフが学生を歓迎しました。

バンザイブースでは、バンザイと日本の自動車社会100年の歴史を記したパネルや、大会スポンサーとして協賛した2007年ユニバーサル技能五輪国際大会の様子、オートサービスショー2023でのブース写真を掲示。若手人材育成の面でも自動車業界の発展に貢献してきたことを訴求しました。

さらに、「工具セット」や「エンジニアカート」、能力1.5tおよび2tの「アルミ製ガレージジャッキ」、ホイールリフター「マスターホイール80」、油脂類を強力に分解する「ECOスーパーファイン」など、参戦チームの車両整備省力化に寄与するツール・ケミカルのほか、整備用・検査用スキャンツール「MST-7R」、ディテールリングブランド「BPRO」の「サイドミラー超撥水コート」も展示・実演しました。

そして、2025・26年度卒業予定の学生に向けた採用活動をPR。自動車機械工具業界でのシェアと知名度はトップクラスであること、また安定した需要があり、技術力の高さから鉄道・航空機業界とも取引があることなどを訴求。多くの学生が強い関心を示していました。

バンザイは自動車整備・修理業界で活躍する人材の拡大・育成・定着を図るべく、今後もこれらの取り組みを継続して参ります。どうぞご期待下さい。

SHOW ROOM

【整備・検査用スキャンツール】MSTシリーズ MST-NANO2

OBD検査に向けて、新たな整備ビジネスのステージへ！
“整備時”“OBD検査時”無線接続対応！
ISO13400(DoIP)対応検査用スキャンツール

- ISO13400(DoIP)通信プロトコル対応
- 整備用は無線(Bluetooth)接続
検査用は有線/無線(Bluetooth)接続
- EDR情報の読み取りに対応(一部国産車のみ)
- FAINESとの車両情報の連携
- ADASキャリブレーション機能搭載
- 音声サポート機能搭載

■仕様

型 式	MST-NANO2
本体寸法 (mm)	110×51×31
電 源 (V)	8～32
本体重量 (g)	103



用途に合わせて“**検査兼用機**”と“**検査専用機**”を選択! OBD 検査時に有線 / 無線での接続が可能です。

兼用機 整備/OBD検査両方に使用のお客様へおすすめ

① MST-nano2 VCI整備ソフト有

型式: MST-NANO2-SOFT

商品説明

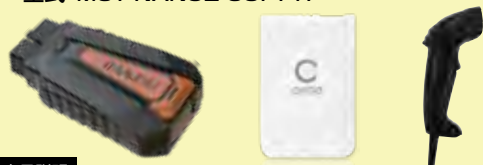
次世代通信(DoIP)にも対応し整備、OBD検査のいずれも対応可能なモデルです。
 ※使用には仕様を満たしたパソコン又はタブレットが必要です。
 ※整備の際には無線接続のみに対応しています。

構成品

VCI(本体) 整備ソフト有	USB TypeC ケーブル(3m)	クイック スタートガイド	本体ソフトケース	ワニ口 アダプター
電源アダプタケー ブル	シガーケーブル	キャリング ケース	スキャンツール ホットライン	

③ MST-nano2 VCI整備ソフト有 リーダーセット

型式: MST-NANO2-SOFT-R



商品説明

①の構成品にオプションの「二次元コードリーダー」「ICカードリーダーライター」を組み込んだセットです。

専用機 OBD検査のみに使用のお客様へおすすめ

② MST-nano2 VCI整備ソフト無

型式: MST-NANO2-U

商品説明

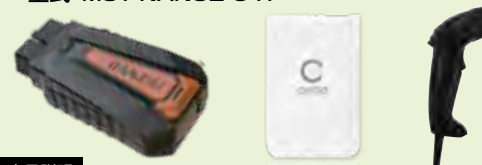
次世代通信(DoIP)にも対応しOBD検査機能のみに対応可能なモデルです。
 ※使用には仕様を満たしたパソコン又はタブレットが必要です。
 ※整備には使用できません。
 ※本体保証は1年間となります。

構成品

VCI(本体) 整備ソフト無	USB TypeC ケーブル(3m)	クイック スタートガイド	本体ソフトケース
-------------------	-----------------------	-----------------	----------

④ MST-nano2 VCI整備ソフト無 リーダーセット

型式: MST-NANO2-U-R



商品説明

②の構成品にオプションの「二次元コードリーダー」「ICカードリーダーライター」を組み込んだセットです。

SHOW ROOM

【整備・検査 兼用スキャンツール】MSTシリーズ MST-8R

画面がMST-7Rの7インチから8インチへサイズアップ、視認性が向上!
タッチパネル操作を採用、直感的な操作可能に

- 8インチのタッチパネルを採用した操作性に優れたスキャンツール
- 整備用として使用する場合、MST-8R単体で使用可能
- 検査用として使用する場合、別途特定DTC照会アプリをインストールしたパソコンをご用意ください
- ISO13400(DoIP)通信プロトコル対応
- 音声サポート機能搭載



接続イメージ

■仕様

型 式	MST-8R
本 体 寸 法 (mm)	W295×H170×D45
本 体 重 量 (g)	990
電 源 (V)	8～32
使用温度範囲 (°C)	0～50
保存温度範囲 (°C)	－20～70
保存湿度範囲 (%RH)	20～85
車 両 I / F	ISO13400(Do-IP)、High Speed CAN、Low Speed CAN、Single Wired CAN、CAN FD、KWP2000、ISO-9141、ISO-9141-2、SAE-J1708、J1850(PWM/VPW) DDL、MMC、Generic(Pull-up、UART×2)
P C 用 I / F	USB USB Type-C
O S	FreeRTOS
ワ イ ヤ レ ス	Wi-Fi 802.11 b/g/n、Bluetooth BR/EDR+BLE4.2(Class2)
画 面 (inch)	LCD: 8.0(800RGB×480pixels) TFTカラー液晶(キャパシティブタッチパネル付)

SHOW ROOM

【通過式タイヤ溝測定器】イーゾートレッド BB-ET-OF(床仕様)

車両を通過させるだけでタイヤの残り溝が測定できます。

- トレッド部の3点を測定するため、タイヤの部位による磨耗の違いを確認できます。



■仕様

型 式	BB-ET-OF
設 置 寸 法 (mm)	W2,245× D1,040× H83
ユ ニ ッ ト 重 量 (kg)	約 110 ※スロープ含まず
電 源 (V)	AC100
対 象 車 種	軽乗用車、普通乗用車

【防災布】ファイヤーブランケット

需要の高まりでリスクも増大!? EVや大容量バッテリーの“バッテリー火災”に対応

- EV火災やバッテリー火災にも対応した最強の耐熱素材
- 水や消化剤は不要
- バッテリー以外にもガソリン車や発電機などに使用してもOK!
- 覆うだけで火や煙、有毒ガスを内部に閉じ込めます
- シンプル&スピーディに使用ができます



■仕様

型式 / 部品	商品名称	対象火災	使用回数	寸法/重量	耐熱温度
YFB-CPX	ファイヤーブランケット CarProX	自動車	30 回	約6×8m 28kg	最大 2500℃
YFB-CST	ファイヤーブランケット CarStandard		1 回 使い切り	約1.8×1.8m 8kg	最大 1600℃
YFB-LIT	ファイヤーブランケット Lithium	リチウムイオン電池		約3×4m 27kg	
YFB-LIT-L	ファイヤーブランケット Lithium Larg			約1.5×1.5m 7.5kg	
YFB-EXT-S	ファイヤーブランケット Extreme	バイク、 電動キックボード		約3×3m 21kg	
YFB-EXT-M	ファイヤーブランケット Extreme				

SHOW ROOM

【電動スリムラチェット】電動スリムラチェット 400ER3

電動×手動で、整備作業は新次元に

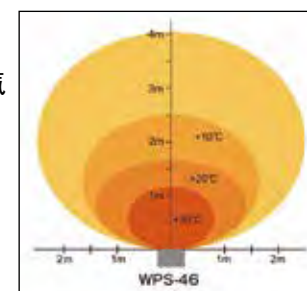
- ギヤ数60歯、細やかな動きで狭い場所での作業が可能。
- 無負荷回転数400回転/分でスピード締め緩め作業。
- 通常のラチェットハンドルと変わらないサイズで電動化。
- 電動時は1N・mで停止、手動での締め付け緩めは最大60N・mまで。
- ビットを差し替えることで正転逆転に対応。
- 充電はUSB-タイプCで充電可能。



【パネル式遠赤外線電気ヒーター】電気ヒーター WPS46

脱炭素・安全性を追求したパネル式遠赤外線電気ヒーター

- 遠赤外線輻射効率 60%以上
- 放熱面温度 400℃以下(20℃環境)
(消防法火災予防条例の「裸火＝電気熱源の場合概ね400℃」非該当)



■仕様

型 式	WPS46
電 源 (V)	3 相 200
消 費 電 力 (kW)	2.3 ~ 4.6 (4 段階)
寸 法 (mm)	1,070 × 930 × 550
角 度 可 変 (度)	下 5 ~ 上 15
重 量 (kg)	35
安 全 装 置	転倒スイッチ、停電時安全加熱防止、ヒューズ
電 源 ケーブル	4 芯 3m ケーブル付き / プラグなし
そ の 他	タイマー内蔵 (1・4・8 時間)



2024年9月10日（火）－9月14日（土）

アウトメカニカ・フランクフルト CASE 時代の 2024 整備トレンド REPORT

2年に1度開催される世界最大級の自動車産業見本市「アウトメカニカ」が9月10日（火）から14日（土）の5日間にかけ、ドイツのフランクフルトで開催されました。世界80カ国から4,200社もの企業が出展し、世界最先端の自動車技術やサービスが集結しました。

今回、日本自動車機械工具協会の欧州視察団として、株式会社バンザイからは営業企画開発部の福田裕史課長（画像左）とサービス部の佐藤剛副参事（画像右）の2名が参加し視察を行いました。



アライメントテスター

エイミングなどの電子制御装置整備で必要性が高まっているアライメントテスターのトレンドは非接触型ではなく、光学カメラ式タイプが多く見受けられました。コストパフォーマンスを重視し、整備事業者が購入しやすいよう配慮する意図が感じられます。例えば、カメラの昇降を手動式にし、コストを抑えた2ポスト式のアライメントテスターやカメラユニットを壁に固定して取り付けるタイプのアライメントテスターが注目を集めていました。フロアレベルとリフトアップでの各測定で異なるカメラを用いることでカメラの昇降機能を省略したモデルも展示されていました。



カメラユニットを壁に固定タイプ



コストを抑えた2ポスト式アライメントテスター

足回り機器

タイヤチェンジャーは様々な機種が顔を揃える中、注目は作業負担を軽減するフルオートのもの。バイスバース社のフルオート機種は、同等の機能を備えたモデルの市場価格よりコストを抑えた機種を出展。また、イタリアのジュリアーノ社のフルオート機種もコストパフォーマンスを意識した機能性が魅力です。一方、ホフマン社のタイヤチェンジャーは26インチに対応する大径モデルを展示。



左からジュリアーノ社、バイスバース社、ホフマン社の各タイヤチェンジャー

タイヤ関連ではスナップオン社とヨサム社がタイヤ溝測定器の実演を実施。



スナップオンエクイップメント社のタイヤ溝測定器

◀ヨサム社のタイヤ溝測定器は大型車用

EV 関連 バッテリーリフター

EV シフトのスピードは鈍化したものの、欧州、中国で普及が進むEVの関連機器も多数出展されていました。中でもバッテリーリフターの出展が目立ちました。



ホフマン社製



ボッシュ社製



CARLEO 社製



MAHA 社製のバッテリーテーパー。リフト機能未搭載

エアコンガス交換機

地球温暖化係数が低く、毒性や可燃性がないため、次世代の冷媒と目されているR744に対応した交換機が出展されていました。すでにドイツの高級車で使用されています。



新冷媒 R744 に対応

BP 関連

セレット社はベンチ式フレーム修正機のベンチ、ジグともにアルミ仕様を出展しました。大幅な軽量化を図ることで作業の負担軽減を目指します。

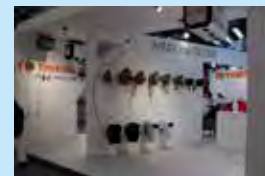


ベンチもアルミの時代



◀アルミ製のスライディングブロックは片手で持ち上げることが可能。

仕入れ先企業も出展



三協リールのブース



USI（イタリア）のブース

その他の視察



1. ADAC（ドイツ自動車連盟）

会員数2800万人を抱えるドイツのロードサービス団体がADACです。また、100項目に及ぶ中古車査定の検査も実施しています。



2. BMW 博物館

BMWの歴代のエンジン、二輪車を含めた車両などを展示した博物館を訪問。博物館にはショールームも隣接するなど、スケールの大きい博物館に圧倒。

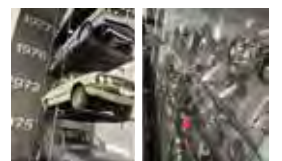


3. DEKRA（ドイツ自動車検査協会）

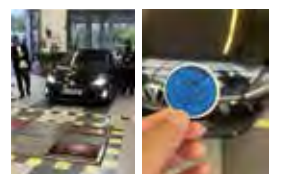
ドイツも日本と同様、車検制度があり、その検査機関がDEKRAです。排ガス検査のプレゼンテーションを聴講し、一連の検査業務の見学をしました。



検査ストールの様子



BMWの歴代の名車を展示



検査の模様（左）と車検合格のステッカー（右）

秋の展示会シーズン真っ盛り!!

長かった猛暑もようやく落ち着き、各地で本格的な展示会シーズンを迎えています。バンザイでは各地の展示会において部品商社様や商工組合様と協力して最新サービス機器の展示を行っています。また、一部の会場では各種のセミナーを開催して最新情報のご提供を行っています。

今後も各地域にて開催されますので、是非最寄りの展示会場へお立寄り頂き、今後のビジネスにお役立てください。

※展示会の開催予定等につきましては最寄りのバンザイへお問い合わせください。



BANZAI GUIDE

第38回オートサービスショー2025

オートサービスショー2025の開催概要が決定!

主催である日本自動車機械工具協会のホームページでは、開催概要が発表され、出展者の申し込みの受付も始まりました。バンザイも、社内プロジェクトチームを発足し、準備に動き出しております。



会期 2025年
6月19日^木～21日^土[3日間]

会場 東京ビッグサイト[東京国際展示場]
東1・2・3ホール及び屋外

開場時間 **10:00~17:00** ※ただし、最終日は16:00まで

入場料(消費税込) —
一般:1,500円
学生:500円

※事前登録者及び中学生以下は無料。

編集後記



秋の気配が色濃くなり、季節の移り変わりを感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今号では、学生フォーミュラ日本大会2024特集をお届けしました。私も企業PRブース説明員として参加し、大会の雰囲気を感じてきました。全国の学生たちが自らの手で設計・製作したフォーミュラカーを競い合うこの大会は、未来のエンジニアたちがリアルな現場で課題に対してチームワークで向き合う貴重な機会です。

自動車業界全体が電動化や自動運転技術の波を迎えている中で、学生たちの柔軟な発想力や先端技術への挑戦は、自動車業界にとっても刺激的なものです。彼らの努力と情熱が、次世代の自動車産業を形作る重要な原動力となることでしょう。

若い力の成長を見守ると共に、私も新たな可能性を探る姿勢を続けたいと思います。

一 <稻木>